



第 10 号

発行日 1995年2月28日
編集人 横浜市グループホーム連絡会
横浜市中央区本牧演坂10本牧生活の家内
TEL 045(623)5318 FAX 045(623)5319

昭和51年12月22日第3種郵便物認可
KSK 増刊通巻1178 (毎月4回5・15・20・25日発行)

ご協力ありがとうございます

阪神大震災後、横浜市作業所連絡会、活動ホーム連絡会、グループホーム連絡会で募金活動に取り組んでまいりましたが、2月いっぱい第1次集約を行ない230万円を作業所やグループホームを運営している団体、被災された障害者の生活を守るために活動している団体ということで下記の団体に送金いたしました。「まちの中で」をお読みいただいている方々からたくさんの心のこもったカンパをお寄せいただいておりますことを厚く御礼申し上げます。

これらのお金は作業所やグループホーム等、被災された障害者の皆さんの今後の生活を建て直していくために役に立てただけだと思います。阪神大震災から2ヵ月がたち、落ち着きを取り戻すと共に被災地のことは世の中から薄く遠ざかっていくのを感じている今日です。被災地ではようやく大阪に避難しておられた障害者の家族のための仮設小規模避難所が建てられ始めたところです。壊れた作業所やグループホームの再建への取り組みも今始められたばかりです。被災地の皆さんが多くの支援を必要とし始めるのはこれからです。マスコミだけに意識を左右されることなく、遠くの現実を思いやれる目を持ち続けたいものです。

横浜市作業所連絡会、活動ホーム連絡会、グループホーム連絡会では引き続き募金活動を行なっております。4月15日にはグループホーム連絡会入居者部会の企画による街頭カンパ活動も計画されています。

今後とも多くの皆さんの温かいご支援、ご協力のほど、お願いいたします。

兵庫県育成会	50万円
障害者救援対策本部	50万円
共同作業所全国連絡会・兵庫県南部地震救援本部	50万円
すばる福祉会	30万円(2回に分けて振込みました)
出発のなかまの会	30万円
日本てんかん協会	20万円

2月末日までに送金いただいた方のお名前です。なお銀行から振込んでいただいた作業所で、障害者地域作業所しかわからずお名前を掲載できないところが多数ありました。申し訳ありませんが送金したのにお名前が掲載されていない方はご連絡ください。次の機会にご報告させていただきます。またこれから振り込んでいただく場合には、障害者地域作業所を頭には書き込まないようお願いいたします。(敬称略、順不同)

須田香、末木、工藤正人、木元幸子、原田ちよえ、原田ひろみ、沢本、久高、千葉、佐々木奈美、今井啓子、今井由美子、岩屋文夫、杉田、川村、山田祐子、三浦しらとり園、市原かね子、板垣スミエ、近藤世樹、藤田太一、山口朋子、佐藤有紀、飯島さやか、村上順子、西岡、坂村光永、磐村信哉、鈴木ひろ枝、榊田、中野敏子、石渡和美、辻嘉世子、横浜市リハセンター図書室、佐藤清彦、未来の会、遠藤春江、加藤文子、鳥井健二、佐藤由身子、吉野美樹、西田幸子、つくしの会、大熊若菜、杉本ひろき、

グループホーム カンガルーの家、グループホーム 友の家、グループホーム グリーンツリー、ふれあい生活の家、本牧生活の家、ダンボの会、グループホーム ダンボ、グループホーム やまゆり、グループホーム ハーモニー、

港北区障害者地域作業所 コスモス、いずみ福祉作業所、障害者地域作業所もみの木、障害者地域作業所友愛の家、港南ひまわり作業所、港北区障害者地域活動ホーム ともだちの丘、共同作業所 いこいの家、ことぶき福祉作業所、障害者地域活動センター 港北根っこの会、障害者地域活動ホーム ほどがや希望の家、地域作業所マリン工房、DEM運営委員会、地域作業所 まろんワークス、地域作業所 もくせい、パティスリーもくせい、港南地域活動ホーム ひの、地域作業所 横浜援護授産所、磯子区障害者地域活動ホーム、UNO工房、ワークランドPWL笹下、地域作業所 みなと、鶴見駒岡作業所、いしずえ作業所、くらき作業所、SEセンター樽町、障害者西作業所、障害者地域作業所あさひの家、南福祉ホームむつみ、障害者活動ホーム金沢福祉センター、みなみ第二作業所めざみ、港南福祉ホーム、しおかぜ作業所、戸塚障害者地域活動ホームしもごう、港北区障害者地域活動ホーム しもだ、障害者地域作業所ワークショップブルースカイ、生活援助センターかたるべ社、地域作業所 虹、神奈川区福祉活動ホーム、福祉を考える会、朝日はにわの会、地域作業所 であいの里、地域作業所 こころ、横浜障害児を守る連絡協議会、かもめ福祉工房、障害者地域作業所シャロームの家、サンライズ地域訓練会、障害者地域作業所よつばホーム、鶴見区障害者地域活動ホーム もとみや、さかえ福祉活動ホーム、西区地域活動ホーム、本牧ダック、地域作業所 なかだ、

(2月28日送金分まで)

派遣ボランティアからの報告

上野忠浩・松野史幸（横浜市リハセンター）、岡村義弘（おか設計工房）

2月18～19日。技術的援助のボランティアとして派遣

阪神障害者解放センター・きんとーん作業所、S氏に修繕内容を聞く。

①2階の居室の雨戸袋がゆがんだため、エアコンの室外機が落ちそうになっている。②1階のトイレの床タイルが、ひびわれている。③外部のスロープ（コンクリート）がゆがんでいる。

①②については、直せそうなのでやろうということになり、材料を調達して修繕工事を行なう。（2月18日記）

須田 香さん（元ふれあい生活の家職員）

2月18日～26日まで神戸・被災地障害者センターに派遣

○手話通訳のAさんから聞いたろうあの人々の体験談

震災直後、電気、水道、ガスが止ってしまった時に、ラジオもテレビも見えない、聞こえないという情報がまったく入らない中で、友達同士が何とか寄り添っていたが、夜になり買い置きのパスタが尽きそうになった時ほど恐ろしいことはなかったようだ。真っ暗になれば友人の手話すら見えなくなってしまい、本当にひとりぼっちになってしまう。

精神障害者互助団体リーダー、Bさんの話し

精神障害者は避難所に行ってもあの喧騒に耐えられなくなるし、薬が切れてしまったらという不安もあり、まったくしんどい状況である。Bさんの場合、たまたま障害者の拠点である六甲デイケアセンターがあったから、仲間の安否確認もでき、静かな避難所をいくつか確保できたが、電車がある程度動くまでの数日間、まったく陸の孤島だったようだ。物資はたくさんあってことわりのに困るほどだが、今一番ほしいものは仲間からのはげましの手紙だそうだ。Bさん本人も薬を飲みながら仲間の避難場所の確保などに奔走しているので、自分のことは最後になってしまう。今はインフルエンザにかかっている体で非常にしんどいのに仲間からの連絡の電話はひっきりなしにかかってくるとのこと。（2月26日記）

赤川 真(障害者地域作業所・本牧ダック職員)
3月6日～12日まで西宮・すばる舎に派遣

おふろ介助に出かける。門戸厄神駅のそばのマンションで奥さんを乗せ、だんなさんの勤めている病院に迎えに行き、その後銭湯へ。帰りはその逆。この夫婦は全盲なので、男女それぞれ介助者として一緒にふろへ。「半年くらい前にマンションを買ったら、この地震で被害を受けて建物はかなり壊れてしまい、赤紙がはられてしまった。」「今でもガスが出ない。水が出たのは3日前。」とのこと。今は週2日くらい、こういった形でおふろに入っている。まだあと3週間程は続きそうとのこと。(3月7日記)

藤田 慎一さん(下宿屋ボランティア)
3月10日～20日まで神戸・被災地障害者センターに派遣

ボランティアの現状報告

- 男はライフデイケア、女はえんぴつの家で生活。
- ライフは、ガス、水がとまっていて、ふろは銭湯等へ行く。
- 朝、夕の食事はです。
- ボランティアは出たり入ったりですが、常時40～50人はいます。
- 仕事は、現在は一日に一件あるかないくらい(休みの人が何人かいる)
- 仕事の内容は送迎、散歩、風呂介助等、日常の生活に戻りつつあることを示すようなものが多い。こういったことを現地の人達に引き継ぐまでボランティアは必要だろうが、やはり長期の方が求められている様子。(長期の方の仕事は他にもまだあります。)

今日、市外等に避難していた障害者の方やその家族を受け入れるためのプレハブが二葉公園に建つ予定です。その件等で明日からまた忙しくなると聞いています。

そのようなプレハブは他にも建つ予定があるようで、3月18日には、須佐野公園に予定されています。

現在、ボランティアが生活しているライフやえんぴつの家も、障害者の方や、その家族の受け入れのために使う予定で、ボランティアは大型バス6台(いすをとばらって)で生活することになるそうです。

西宮の方では、長期ボランティア(来年度)のための保障も考えていて、そのくらい4月からの長期ボランティアは必要とされています。(3月12日記)

被災地の声

尼崎の作業所調査から

尼崎：みんなの労働文化センター

今回、作業所の被災状況聞き取り調査を実施してみて痛切に実感したことは、地域で仲間を作っていて本当に良かったということだ。それは、どの作業所でも聞かれた言葉だった。作業所のメンバーの消息だけでなく、その友達から友達へと、情報は広がっていく。お互いに心配し心配されることで、安心感が生まれる。さらに、これまでつきあいのなかった者どうしても、共通の課題を確認し、地域ネットワークのようなものができてくるように思う。これからが、一緒に頑張らないといけない時だ。反面で、ひっそりと家族だけで暮らしている障害者が、どれほど不安だろうかということだ。みんなが言う。作業所に来てよかったと。行政は、まったくといっていいほど、障害者の状況をつかんでいない。尼崎市では、生活保護受給者とヘルパーを派遣している家庭についてのみ情報は知り得たらしい。うちのメンバーでも、それ以外の方が多いのだ。たまたま作業所に来ていたことで、カバーできたことがたくさんある。在宅の障害者がおきざりにされていく。私たちは、ひとりひとり、つないでいきたいと思う。

(障害者の復活、救援活動<兵庫県南部地震情報>第29信 -2/18-より)

早川福祉会館で避難生活を送っている立場から

六甲デイケアセンター N

地震が起きて、現在早川(大阪)に14名の障害者と家族が避難生活を送っています。介助者が入れ代わり立ち代わりなので、その対応でしんどい部分があります。

福永さんをはじめ知り合いが大阪に来てくれると、うれしい。ふだんは「変な怖いおっちゃん」と思っていたけれども、離れてみるとありがたみが分かる。本当に会って話していると涙が出ます。

神戸で六甲デイケアセンターに通って、料理を作ったり、外に出ていったり等の活動をやっていたが、その活動を復活させたい。六甲デイケアーにいていた

ときは、外出や料理のプログラムをやっていても、「何でこんなことをやるのかなあ」と思っていた。でも、停止してみて、その意味がはじめて分かった。「すごいことをやっていたんや」と。地域で、デイケアに通っていた意味が見えてきた。たしかに、今の状況は大変ですが、チャンスと考えて、大阪の自立障害者の話しを聞いたりして兵庫に持ってかえりたいと思います。

(障害者による復活、救援活動<兵庫県南部地震情報>第33信 -3/6-より)

聴覚障害者の立場から

草の根ろうあ者こんだん会 I

私の家の中も無茶苦茶になり最初は全然動けなかったが、18日から活動開始。救援活動を通じて、肢体障害等に比べ、作業所や生きる場等を持たないのが、ろうあ者運動の弱点だと思った。仲間で亡くなった人はいないが、家に住むのが困難な仲間が20人程いる。今まで生活への取り組みが弱かったから、これから重い課題になると思う。

草の根としては①会員、非会員を問わない、②盲ろう者など重度の仲間の支援、③聴覚障害者だけではなく、他の障害者団体とも協力、の3点を原則に救援活動を行ってきた。

ろうあ者の立場からは「手話通訳だけの協力」というのは困る。「手話もできる支援者」がほしい。手話通訳をやりながら、共に生きる仲間として引っ越しやおばあちゃんの背中を洗うというようなこともしてほしい。ろうあ者の場合、たんに情報を与えるだけでなく、一緒に考えることが必要。情報と生活相談を兼ねた取り組みをしたい。被災障害者センターとも連絡を取りながら、尼崎、芦屋など阪神東部で拠点をつくって取り組んで行きたい。

(障害者による復活、救援活動<兵庫県南部地震情報>第34信 -3/9-より)

復活、救援活動は、大きな変化を迎えている。やはり熱の後のように、注目度が覚め、冷厳な生活苦が孤独となって迫っている。世間に生活づくりが始まり、競争原理が復活し、トゲトゲしい雰囲気漂う中、障害者・高齢者など「社会的弱者」といわれる人々は、埋没する。その一人一人の生活づくりが、私たちのほんものの活動だ。

(障害者による復活、救援活動<兵庫県南部地震情報>第34信 -3/9-より)

西宮・すばる舎・むすばる新聞 No.108 (2月27日発行) より転載

大地震から40日

すばる福祉会は、

2月18日(Since1980)

大震災の救援活動の中で15周年を迎えました

すばる福祉会の再建のために、

全国のみなさんの支援をお願いします

私たちの炊き出し活動は、毎日になりました。1500から2500人分になりました。

温かい物がほとんど届かない避難所がまだあります。けんめいに活動する「すばる福祉会」のボランティアは、そんな声を聞くとじっとして居れません。「あの避難所にも届けよう」ということになります。私たちの炊き出し活動は、増えこそすれ、減りません。

私たちの救援活動の最優先活動は、老人・体の不自由な人・知的ハンディを持つ人などへの救援です。毎日、会いに行き、お話をしています。大震災によって、かたくなになった心が開かれていって、その人たちにとって、「すばる福祉会」のボランティアがなくてはならない存在になってきました。「4月になったら、もう来てくれないのやろね」の言葉が出て、ボランティアを途惑わせています。

地域の老人・体の不自由な人・知的ハンディを持つ人のために、一日でも早く、地域支援センターとして、「すばる福祉会」本部を再建しなくてはなりません。ハンディを持つ人たちが、地域の中で普通の生活を営むことができるようにサポートするために、「すばる福祉会」を人的にも物的にも、確固たるものにしなければなりません。

みなさん、大震災のこの地から光を放ち続けることができるように、絶大なご支援をお願いします。救援のこの活動が、この後も地域に根付いたものになることを願っています。

**すばる福祉会は、年寄り・ハンディを持つ人が、
地域社会で生きていけるように力を尽くします**

40日でも、どんどん変わっていきます。倒壊家屋を片づけた後、空き地が多くなります。仮設住宅が建っていきます。

人々の心も変わっていきます。当初、「命が助かってよかったね」といっていた人たちは、自分の家のこと、他人のことを云々することが多くなりました。避難所の中の人たちと、外の人たちの感情もかなり違ったものとなりました。学校の施設も使えない部分が増えて来ました。

ボランティアや支援の引き上げも目立って来ました。これでいいのでしょうか。

障害者の暮らしの安定のため

生活の場・活動の場の再建に支援を

地震から2ヵ月がたち、被災地では作業所等の活動の再開やこわれた建物の再建にむけての取り組みがはじまっています。

横浜市の作業所連絡会、活動ホーム連絡会、グループホーム連絡会では次の様な支援活動をおこなっております。みなさまの暖かいご支援、ご協力をお願いいたします。

- 1) 作業所、グループホーム等、地域で暮らす障害者の生活や活動の場の再建および生活の支援のためには膨大な費用がかかります。皆様からの資金カンパを募っています。
- 2) 被災地では障害者の皆さんの地域での新しい生活を作り上げていくために、長期にわたって多くの人手を必要としています。3連絡会では長期ボランティアの派遣をおこなっています。

資金を援助して下さる方は次の方法でお送り下さい。

郵便振込：横浜市グループホーム連絡会

00280-7-73608 通信欄に「阪神大震災カンパ」と明記のこと

障害者の介助等、生活支援のためのボランティアをできる方は名前、連絡先、可能な期間等を登録して下さい。

連絡先：横浜市グループホーム連絡会

TEL 045-623-5318 FAX 045-623-5319